

5月25日から7月3日の6週間、消化器外科 I で実習をさせていただきました。
6週間で北大病院、アメリカ Cleveland Clinic, 天使病院の3つの実習先でお世話になりました。

大学の移植グループで1週間の実習させていただいた後、アメリカの Cleveland Clinic で2週間実習させていただきました。全米第4位の病院ということで非常に規模の大きな病院で2013年には128件の肝移植が行われています。

2週間で私は4件の移植を見学させていただき、そのうちの3件はドナーの手術にいらさせていただきました。初めてドナーの手術をみたときは衝撃的で、すべての出来事に目を見張るばかりでした。



病棟、外来も見学させていただきましたが、移植後の患者さんはどなたも非常に生き生きとしていらっしゃいました。また、移植を繰り返されている方もいらっしゃいました。移植さえできればこれほどまでに見ちがえるようになるのだということは日本でもアメリカでも変わらず、患者さん方の元気な姿が印象的でした。しかし、アメリカでは多くの人が移植を受けることができ、また再移植をされている方も多いたことが全く日本と異なりました。価値観、倫理観から生まれる差異であり、難しい問題ではありますが、日本でももっと増えなければいけないと感じました。

この他にも制度や人々の姿勢、考え方など多くの違いをひしひしと感じました。この2週

間で自分が将来どう働きたいのか、何をを目指すのかということについて強く考えさせられる、いいきっかけとなりました。

その後の 2 週間は天使病院で実習させていただきました。天使病院では小児外科の手術が多く、鼠径ヘルニアや臍ヘルニア、Hirschsprung 病の手術に入らせていただきました。鼠径ヘルニアの手術では外鼠径ヘルニアと内鼠径ヘルニアの両方の手術をみることで違いを実感できたことが興味深かったです。

6 週間で非常に有意義な実習をさせていただき、多くの刺激を受けました。このような機会をくださった第一外科の先生方、また各病院でお世話になりました先生方にまことに感謝しております。ありがとうございました。

6 週間という長期にわたり、大変お世話になりました。6 週間の実習期間のうち、中 4 週間は院外実習(日鋼記念病院、Cleveland Clinic)の機会を設けていただき、自分の将来象を考えるうえで大変貴重な機会を与えていただきました。消化器外科 I の先生方ならび秘書の皆さまにこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

以下、実習の簡単な報告をさせていただきます。

①北大病院(第 1 週、第 6 週)

大学では、消化管グループにて実習させていただきました。第 1 週では桑園にて鏡視下結紮講習会を開催していただき、手技的に普段いい加減になっていた部分を見直すよいきっかけとなりました。第 6 週は院外実習を終えた後であったため、改めて大学病院と外病院で行われている医療を比較し、自分の中で整理するよいきっかけになりました。

②日鋼記念病院(第 2 週、第 3 週)

2 週間、ほぼすべての手術に手洗いして入らせていただきました。また、外科の業務を連続的に追うことで、外科の大変な面も垣間見ました。病棟業務、手術、外来、検査と、1 秒たりとも無駄にしない外科の先生方の動きに圧倒されましたが、同時に、将来は「これくらいこなせるようになりたい」という目標を持つことができました。よく御馳走しても頂きました。外科での実習でしたが太って帰札してしまいました。ありがとうございました。

③Cleveland Clinic(アメリカ、オハイオ州)(第 4 週、5 週)

移植外科で勤務されている橋元宏司先生(九州大学、第二外科出身)にコーディネートしていただき、Observer として実習して参りました。行く前、方々から、「英語は大丈夫か?」と心配の声が挙がっておりましたが、本当に行って良かったと思っています。日本と海外のシステムや分化の違いから、「海外で学んだことを同じように日本で適応できない、日本人を救えない」というジレンマに向き合うことになるかもしれません。しかし、多様な国籍の医療者の姿を見て、自分の本当にやりたいことを追求するためなら、海外に出るということは、困難ではありますが、非常に魅力的な道だと思いました。国内、海外にせよ、まずは自分の生涯をかけられるテーマを見つけることが医師という仕事を充実させる秘訣だと改めて感じています。



消化器外科 I 選択実習報告

小野寺 慧洲

6年生の選択実習にて、消化器外科 I で実習させていただいたことを総括したい。その前に、はじめの 2 週間で左手首の骨折という形で休まざるを得なかったことを、お詫び申し上げたい。そんなわけで実質 4 週間の実習となったが、たいへん中身の濃い実習生活を過ごすことができた。4 週間の内訳は、第 1 週が岩見沢市立総合病院、第 2、3 週が札幌厚生病院、第 4 週が北大病院であった。

岩見沢市立総合病院は、札幌からバスで 40 分ほどの場所にある。研修先としておすすめの病院とお伺いして実習させていただいたが、先生方がたいへん優しくとても雰囲気の良いのが印象的であった。初日こそギプスをつけていたものの、取れてからは術野にも積極的に入らせていただき、多くのものを見ることができた。大きな病院では助手の人数も多かったりしてどうしても遠目になりがちであるが、近くで見ることができるといのは大きなメリットであった。飲みの席でも楽しく外科な感じの飲み会であり、ますます外科医に魅力を感じた、と書けば誤解を招きかねないが、ともあれ充実した 1 週間であった。さらに岩見沢市立総合病院には、選択実習終了後にも 1 週間見学させていただいたのである。

札幌厚生病院は手術件数の多い病院であり、毎日のように手術に入らせていただいた。外科の中でグループに分かれており、その中では甲状腺の手術も行っており興味深かった。研修医の先生とも接することができ、身近な将来像としてよい刺激となった。術前カンファでも発表させていただいたが、カルテが手書きであり略語も多く内容を把握するのが難しかったものの、先生方のフォローもあり何とか終えることができた。いずれ研修するようになると、こういった機会は必ずあるわけでいい勉強となった。お食事にも連れて行ってくださり、美味しいお寿司と初めて食べるトルコ料理の異国情緒さは、学ぶことの多かった 2 週間に深い味わいを残した。



北大病院では手術のない週であったが、実習報告のプレゼンの用意をしたり大腸癌研究会に同行したりと、いろいろな経験をさせていただいた。外科医になるには技術はもちろん幅広い知識も必要とされるのであり、多くの経験を積むことが重要となろう。今回の実習で外病院や全国学会の雰囲気を肌で感じることは大きな収穫であった。選択実習を通して I 外の皆様にはたいへんお世話になりました。誠に感謝申し上げます。

5月から6月にかけて、6週間にわたる選択実習を終えました。私は大学で1週間、天使病院(札幌市)で2週間、Cleveland Clinic(オハイオ州)で2週間、大学に戻り1週間というスケジュールで実習いたしました。北海道大学病院では肝胆膵チームに付いて回り大学病院らしい難しい手術を、天使病院では消化器に限らず広い分野の一般的な手術を見学させていただきました。

Cleveland Clinic では去年からの病院実習全体の中でも最も貴重な体験を得られました。輸血や血液透析、心臓移植などの発祥の地とされ、アメリカ合衆国の中でも移植のメッカと言える病院です。ここでは外来から手術室まであらゆる点で、日本とは一味違った病院風景が広がっており、自分の頭の固さと世界の広さを思い知らされました。とくに脳死臓器移植と肥満関連手術は、日本では滅多に見ることができない手術であり、それがごく日常的に行われている光景にカルチャー・ショックを覚えました。一方で、脳死移植は高度なドナー確保システムが前提になっており、宗教観の傾向の違いを抜きにしても日本がすぐに真似ることは困難だろうとも感じました。

Cleveland Clinic での日本出身の先生方の働きぶりを見て、アメリカの高度な職場では非ネイティブの英語力とアジア系の外見でも受け入れられるという平等さを実感できました。もちろんかの先生方は病院で成果を挙げているからこそ、それに見合った待遇を受けている



というのには理解していますが、海外からやってきた人々にも居心地の良い空間を作るたゆまぬ努力は実習生の視線からも明らかでした。逆の立場では、ますます広がりゆくグローバル地球社会において、自分も日本にやってきた海外からの留学生や専門家に対して寛容であらねばならないと心に刻み込みました。

最後になりますが、お忙しい中ご指導

くださいました各病院の先生方、様々な形でサポートしていただいたスタッフの皆様に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。



消化器外科 I 長期実習を終えて

蓑島考

消化器外科 I での 6 週間の実習において、大学病院での実習のほか院外実習として岩見沢市立総合病院と天使病院でそれぞれ 2 週間ずつお世話になりましたので、簡単にご報告させていただきます。

・ 6/1～6/12 岩見沢市立総合病院

外科チームの先生方について 2 週間過ごしました。手術では毎回術野に入れさせていただき、先生方のご指導の下いくつか手技も経験することができました。症例は消化管・肺・シャント狭窄など多様で多くの手術を見ることができました。また、緊急手術も何件もあり、外科医の日常を見た気がしました。空いた時間にはエコーやラパロの練習もさせていただきました。ご飯や飲みにもたびたび連れて行って下さり、とても楽しかったです。初めて市中病院の外科の様子を長期間見ることとなりましたが、忙しい中でも先生方がやりがいを持って仕事しているのが印象的でした。

・ 6/15～6/26 天使病院

朝のレクチャーから夕回診まで、研修医の先生と一緒に行動させていただきました。小児の症例が多く、手術だけでなく造影検査などにもたびたび立ち会っていたのが印象的でした。また、1 年目の先生が単径ヘルニアの手術を執刀しているのを見て、自分もやってみたいという気持ちが強くなりました。手術の無い時間には他の科の様子も見学させていただくなど、初期研修の内容や雰囲気を感じることができて、1 年後の自分を想像する良い機会になりました。山本先生を中心に若手の指導に力を入れているのが感じられましたし、また研修医の皆さんがとても元気に過ごしていて、研修病院として非常に魅力的だと思いました。

また、初期研修医向けの結紮・縫合講習会や消化器外科地方学会にも先生方のご厚意により参加させていただきました。学生として非常に貴重な経験をすることができました。外科志望の自分としては、非常に有意義な実習となりましたし、より興味を持つことができました。6 週間、多くの方にお世話になりました。本当に感謝しています。ご指導いただきまして、ありがとうございました。